

健康だより (がん予防)⑤ 女性のがんⅡ

<子宮がん> 20代から急増

子宮がんはがんのできた位置によって、子宮頸がんと、子宮体がんに分けられます。

子宮の入り口から3分の1あたりの子宮頸部にできるのが子宮頸がん、それ以外の子宮の部屋にできるのが子宮体がんです。

これらはがんのできる位置が違っただけでなく、がん細胞のタイプも異なるため、治療法なども異なります。

子宮頸がん

子宮頸がんは「ヒトパピローマウイルス」が大きくかかわっていることがわかってきました。

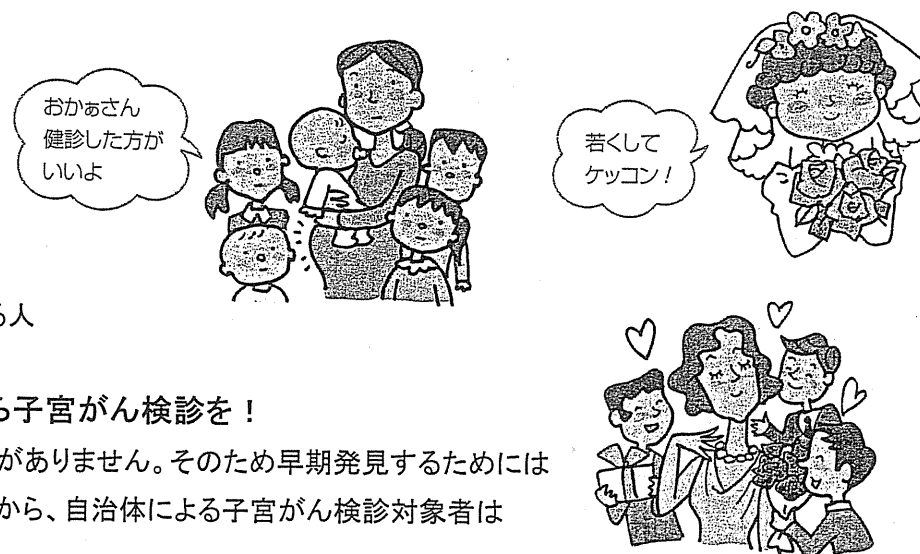
これは、いぼを作るウイルスの仲間で 約100種類あり、そのうちの10数種類の特殊なタイプが子宮頸がんの原因になると考えられています。

子宮頸がんは、30～40歳代の女性に多く見られますが、最近、20歳代に急増しており、ここ20年間で4倍以上になったといわれています(報告によっては約15倍)

若い年代の性行動の多様化により「ヒトパピローマウイルス」の感染が広がっていることも一因と考えられます。

* 子宮頸がんになりやすい人

- ・妊娠・出産回数の多い人
- ・早婚の人
- ・性交渉開始年齢の低い人
- ・性交渉相手の多い人
- ・ヒトパピローマウイルスに感染している人



* 早期発見のために・・・20歳代から子宮がん検診を！

子宮頸がんは初期にはほとんど自覚症状がありません。そのため早期発見するためには「検診」を受けることが重要です。2004年から、自治体による子宮がん検診対象者は「20歳以上」となりました。

性交渉の経験があれば、自分を守る手段として検診を受けることが大切です。

子宮体がん

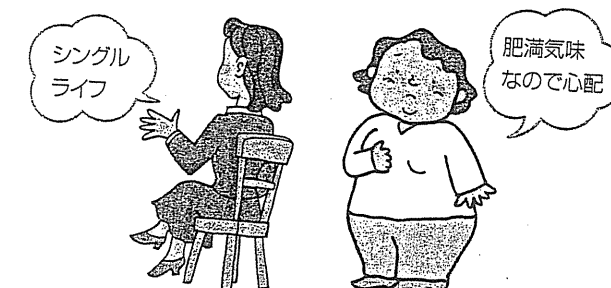
子宮体がん原因として、女性ホルモンのバランスの崩れが重要であることがわかっています。

子宮の内側をおおっている子宮内膜から発生します。

子宮内膜は生理(月経)で流れてしまうため、生理が正常であればもし細胞に異常があってもがんになることは少ないようです。そのため、若い女性には少なく50歳代に最も多かったのですが、近年は閉経前の「若年性子宮体がん」も増加しています。

* 子宮体がんになりやすい人

- ・生理不順
- ・妊娠・出産経験がない
- ・肥満
- ・治療でホルモン薬を使用



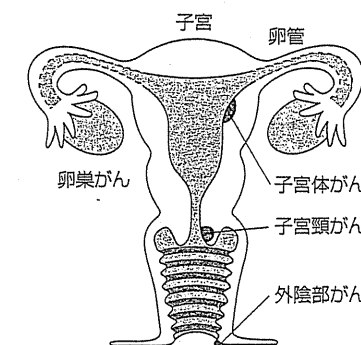
* 早期発見のために・・・自覚症状を見逃さない！

子宮体がんでは、ごく早期から「不正性器出血」が現れるのが特徴です。

また「おりものの異常・下腹部の痛み」などが現れることがあります。自己判断せずに、すぐに婦人科を受診するようにしてください

子宮がんの種類と特徴

子宮頸がん	
自覚症状	初期は無症状
明らかになっている原因	ヒトパピローマウイルス
発症年齢のピーク	30～40歳代 (20歳代に急増)
早期発見のポイント	子宮がん検診

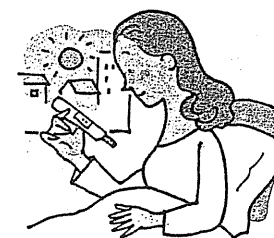


子宮体がん	
自覚症状	不正性器出血
明らかになっている原因	女性ホルモンのバランスの崩れ
発症年齢のピーク	50歳代
早期発見のポイント	症状があれば受診

基礎体温をはかりましょう

朝の5分、ベッドの中で 健康チェック

基礎体温は女性ホルモンの働きや排卵の有無など多くの情報を伝えてくれるほか、避妊する場合にも役立ちます。



不正性器出血とは
月経以外の性器からの不正な出血のことをいいます。出血量は様々で、たくさん出る場合も、下着が少し汚れる程度の出血もあります。また、閉経後に、たびたび出血するような場合も、不正出血に入ります。